

2023年度SDGs未来都市全体計画提案概要(提案様式2)

提案全体のタイトル: 日本三景天橋立のあるまち宮津の未来へつなぐチャレンジ
 ~SDGsな観光地づくり、若者から選ばれるまちづくり、資源循環の促進~

提案者名: 京都府宮津市

全体計画の概要: ①人口減少・高齢化→②地域経済縮小・雇用の減少→③若年層の都市部流出→①人口減少… というマイナススパイラルからの脱却に向け、世界から選ばれるSDGsな観光地づくりや観光を核とした地域経済の好循環の創出、若者に選ばれるまちづくりプロジェクトによる若者の移住定住の促進や関係人口の拡大、資源循環の促進により、持続可能で魅力あるまちづくりを展開する。

1. 将来ロジック	地域の実態	2030年のあるべき姿	
	宮津市は、「日本三景天橋立」をはじめとする美しい自然環境と豊かな歴史・文化資産を擁する観光都市である。一方、人口減少・少子高齢化、地域経済の縮小・雇用の減少、若年層の都市部流出…というマイナススパイラルに陥っており、観光を核とした経済の好循環を生み出し、若者に選ばれる魅力あるまちづくりを進めていく必要がある。	「共に創る みんなが活躍する 豊かなまち“みやづ”」 宮津に住む人、宮津に関わる人など一人ひとりが役割や生きがいを持って活躍し、持続可能な豊かなまちにすることで、2030年も活力ある宮津市を実現する。	
	2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット	【経済】豊かな地域資源を活かした地域経済力が高いまち 【社会】関係人口が増え、若者・子育て世帯が宮津に住みたい、住み続けたいと思えるまち 【環境】生活環境と自然環境を守り育てる環境負荷の小さなまち	
2. 自治体SDGsの推進に資する取組	自治体SDGsに資する取組	情報発信	普及展開性
	【経済】観光誘客と観光SDGsの推進、観光産業の域内連携による地域の振興、起業・創業による地域経済の活性化 【社会】総合的な移住・定住対策と関係人口の拡大、次代を担う地域人財の育成と地域力の向上、地域コミュニティを維持・再生する次代の担い手づくり 【環境】廃棄物の資源循環に関する取組、自然環境を守る取組、世界遺産登録を目指す取組	【域内】プラットフォームによる情報発信、イベント等での普及啓発、市内高校との連携による情報発信(市広報誌、SNS等)、市広報誌へのコラムの毎月掲載、市独自のSDGsロゴの制作・活用 【域外】「天橋立」を前面に出した環境・観光等のシティプロモーションの展開 【海外】海の京都インバウンド戦略、世界で最も美しい湾クラブ、デジタル先端技術を活用した情報発信	人口減少、少子高齢化に伴う地域の疲弊は全国地方都市の共通の課題。本市の世界から選ばれるSDGsな観光地づくり、観光を核とした地域経済振興、若者に選ばれるまちづくりプラ条例に基づく環境活動などの取組を市民、事業者、観光客等と連携協力して進め、持続可能なまちづくりにつなげることは、他地域への普及展開性が高い。
3. 推進体制	各種計画への反映	行政体内部の執行体制	ステークホルダーとの連携
	○第7次宮津市総合計画 ○第2期宮津市まち・ひと・しごと創生総合戦略 ○宮津市環境基本計画 ○宮津市観光戦略 など	・市長を本部長、幹部職員を本部員とする「宮津市SDGs推進本部(2021.5設置)」により全庁的にSDGsを推進 ・職員のSDGsの理解促進や、分野を横断した取組の推進 ・PDCAサイクルによる実効性を確保	【域内外】天橋立を守る会、天橋立を世界遺産にする会、宮津商工会議所、京都北都信用金庫、宮津天橋立観光旅館協同組合、大和学園、宮津天橋立高校など 【自治体】日本「持続可能な観光」地域協議会、日本三景観光連絡協議会など 【海外】世界で最も美しい湾クラブなど
	自律的好循環の形成に向けた制度の構築等	①「みやづSDGsプラットフォーム」において、行政・企業・団体等が持つ強みや課題が見える化し、共創による取組を進めることで、地域経済の活性化や地域課題の解決につなげる。 ②SDGs宣言制度を創設し、SDGs推進の取組を促すとともに、金融機関にSDGsに取り組む企業等への融資制度の優遇等の協力検討を進め、資金の還流を生み出す。 ③企業版ふるさと納税の活用により、市外企業の本市のSDGs推進活動への参画を促す。	